

令和6年9月23日開催

自治会・町内会まるごとミーティング 活動レポート

作成：守谷市役所 市民協働推進課

今回は長谷川幸介先生をお招きし、基調提案（講演）及びグループワーク形式で開催しました。

- 第1部 基調提案：守谷の「新しい幸せスタイル」を考える
第2部 グループでの情報交換会

長谷川 幸介 先生（茨城県生涯学習・社会教育研究会会長）
※基調提案（講演）の講師とグループディスカッションの進行役をお務めいただきました。



第1部：基調提案（講演）

テーマ：守谷の「新しい幸せスタイル」を考える

★変わりゆく自治会・町内会

- 1) 若い世代が加入しない
 - ・活動内容をアピールしても自治会加入が進まない
 - ・世代の違いによって幸せに対する感覚が異なっている
- 2) どうして自治会・町内会が生まれたのか
 - ・人は集団で共有して文化を作っていく（共感力が大切）
 - ・人は進化の過程で支え合うという仕組みを作った

★共感力をつくる4つのつながりの変化

生活課題が個人へ直接行かないように

⇒「血縁・地縁・友縁・職縁」というつながりを作ったが変化してきた

- 1) 血縁（家族）：自分と家族が助ける
 - ・家族の在り方が変わった（核家族化・一人暮らし化）
 - ・夫婦二人暮らしの生活が多くなる
 - ⇒怖いのは「独りぼっち」、人とのつながりを作るようにする
- 2) 地縁（地域）：自治会・町内会との関係
 - ①戦後
 - ・出稼ぎによる都市部への人口流出
 - ・自治会・町内会の形が変わり、活動が旺盛になった
 - ②現在
 - ・課題が無くなり、課題を発見することから考えないといけなくなった
 - ・「今だけ・自分だけ・お金だけ」と思う層が新世代で増えてきた
 - ③自治会・町内会がなぜ必要なのか？
 - ・安全・安心の保険として
 - ⇒何かあったときに自治会・町内会は保険としての機能を発揮する
 - 保険の内容は地域住民で決められる（水害、震災、防犯等）

★つながりの変化に対応するために

4つのつながりが変化することで無縁社会が進んできた

⇒まちづくり協議会を組織

- ・地域の特性ごとに分け、社会福祉協議会・支部社協をつなげる
- ・無縁社会というつながりの穴を埋め戻す

第2部：情報交換会

第2部では、AからDの4グループに分かれ、ワールドカフェ形式で次の内容について、皆さんで意見を交わしました。

- ・今、困っている課題は何ですか
- ・どんな対応策が考えられますか
- ・対応策のための条件は何ですか

グループA

①後継者不足

- ・メリットとデメリットをはっきりさせる
- ・業務の軽減化（市の会議が平日にあるため、休日に開催できないか）
※自治会の合併によって役員業務の輪番が早く回って来づらくする

②無償ボランティア

- ・有償ボランティアという考えを取り入れる

③子ども中心の楽しい行事を増やす

- ・子どもが来ると親やお年寄りも参加する

グループB

①会員数の減少

- ・防災（共助）を主幹に置くことで会員数の増加を地道に行う

②役員の負担が多い

- ・勇気をもって業務を削り、なくて問題なかったものは次の役員に引き継がない
- ・マニュアル化や電子化の推進

③環境美化に人が集まらない

- ・参加者へのジュース等配布
- ・出欠を取ることで参加意識の増進を図る

④子どもの減少

- ・地域全体で育成する環境整備（子ども会、PTAとの交流）

グループC

①自治会・町内会の存在意義がない

- ・地域によって規模や歴史が違う
- ・地域の規模が適正なのかを考えた方がいいのではないか

②存在意義を高めるための対策

- ・市から自治会への区長業務委託料を利用し、市内で使えるポイントを与える
- ・会費を下げる
- ・自治会は安全安心の保険であり、市との防災窓口となる点を強調する

グループD

①自治会の業務をオープンにすることで内容を知ってもらう

- ・情報発信を工夫する

②市役所との連携

- ・デジタル化サポートなどを依頼していく

③役員の高齢化・なり手不足

- ・高齢者への積極的な活用（役員になりたいという人の活用）
- ・自治会役員へのポイント付与

長谷川幸介先生

基調提案の中で、人はつながって生きてきたとお話をしましたが、若い世代は個人を出し始めました。しかし、人間は個人で生きる動物ではありません。個を活かした新しいつながりを作らなければいけません。個性を活かせるような自治会・町内会のあり方を毎年まるごとミーティングを通して深めていただきたいと思います。また、地域で活動している団体は沢山あります。その土台を支えている自治会・町内会のリーダーたちにはそういった地域で活動している団体の話を聞いていただきたい。本日はとても楽しく有意義な発表を聞くことができました。

生活経済部市民協働推進課長

自治会・町内会の方々の今までの経験から検討を加えていただくことで、より地域にあった対応ができると考えております。先生の講演にもありましたが、何か起きたときに発動する保険というのが自治会・町内会だということを各グループの発表を聞かせていただき実感しました。自治会・町内会の課題に対して、役員の皆様が悩まれていることを市民協働推進課も理解しております。自治会・町内会が直面している課題に対して、これからも一緒に解決に向けて対応させていただきたいと考えております。

教育委員会生涯学習課長

皆さんのお話を聞かせていただき、地縁や友縁を持続可能なものにするのが一番の課題だと感じました。世代間交流（子どもからお年寄りまでのつながり）について、生涯学習課でも様々なことに若い世代が集まっていたいただきたいという課題があり、自治会・町内会と共通していると感じました。公民館が市内に4か所ありますので、是非利用をいただきたいと思っております。また、公民館のほかにも身近な存在として学校があり、令和3年度にスクールボランティアという制度を作りました。お気軽に学校に足を運んでいただける機会として、PTAなどの若い世代との交流にもつながると思いますので、是非ご協力いただきますようお願いいたします。

社会福祉協議会事務局長

本日は活発な意見をお聞きすることができました。社会福祉協議会は地域の皆様の力を借りて地域のつながりづくりを頑張っております。その中でも、地域の「支え合い」・「助け合い」・「つながり」が大切だと改めて感じました。

自治会の安心・安全・保険の町内会として、安心という意味でアンケートを取った時に、「その地域にずっと住んでいたい」という御意見が本当に多くありました。そのためには、将来一人になってもそこに住んでいられるような支え合いや見守りができたらいいなと思います。その仕組みを地域の皆様と考えて、どのような支え合いが必要なのかを皆様と一緒に考えていきたいと思っております。是非これからもお力をお貸しいただけますと嬉しく思いますのでよろしくお願いいたします。